

あのできごとから一年たつて...

等々方 祐希

ぼくたちをおそった天災。それは地震だ、
た。あの忘れられない十月二十三日の新潟中
越地震から早一年がたとうとしてゐる。ぼく
はあの日、いったいなにをしておいたのだろう
か？。

十月二十三日午後五時五十六分。ぼくは、
塾で質問と闘つていた。その時だ。一瞬ケラッ

としたかと思うとドドドドドという轟音と共に
に震度六弱が襲つてきた。ぼくはと、さに机
の下に避難し、それから外に出た。怖かった。
しばらくして、親がむかえに来て、家族が無
事だと聞くと少しほっとした。家に帰つてみ
ると、家はこわれていなかっただけで中は、手
のつけられない状態だった。次の日から片付
けが始まった。いろいろな物がたなから落ち
ていたが、さいわい、こわれたのは少しの物
だけだった。二週間後、学校がはじまった。

友だちに会えた時は、とてもうれしかった。
一人もけがをせず、みんな元気い、はいだ、
た。

地震が発生してからいろいろたニユースを
聞いた。その中で死者が42人もでてしまった。
ニユースを聞いたとき、本当に悲しかった。
今、ぼくたちは理科で地層の学習をしている。
地震の起こり方も知った。地震はさけられな
いものともわかった。地震がさけられな
らどうすればよいのか？それは、対策をたて
ればいいのだ。対策を立て、きちんと予防を
すれば、死者がいなくなると思う。今、東海
の方で地震が起こると言われていますが、そ
のときは、死者がでないでほしいです。